



平成27年4月30日

各 位

上場会社名 株式会社 サンエー化研  
 代表者 代表取締役社長 藤岡 宣隆  
 (コード番号 4234)  
 問合せ先責任者 執行役員 経理部長 芝 彦尚  
 (TEL 03-3241-5701)

## 業績予想の修正及び営業外費用の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向の変化と営業外費用の計上によって、平成26年10月17日に公表いたしました平成27年3月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	30,400	300	410	280	25.51
今回修正予想(B)	29,884	141	85	51	4.70
増減額(B-A)	△516	△159	△325	△229	
増減率(%)	△1.7	△53.0	△79.3	△81.8	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	33,024	1,171	1,263	832	75.89

平成27年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	27,100	360	250	22.78
今回修正予想(B)	26,681	84	69	6.34
増減額(B-A)	△419	△276	△181	
増減率(%)	△1.5	△76.7	△72.4	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	29,889	1,172	797	72.64

修正の理由

#### 1. 業績動向の変化について

年明け以降回復を見込んでおりました携帯情報端末向け表面保護フィルムは、タッチパネルの仕様におけるトレンドの変化に迅速に対応できなかったことや、韓国向けの低調な販売が長期化したことに加え、中国市場における液晶テレビ向け表面保護フィルム拡販の遅れなどが重なり、前回の業績予想修正時に見込んでおりました販売量に届かず、機能性材料セグメントの売上高は修正後の計画から更に減少しました。また、軽包装材料セグメントにおいては、大口ユーザーの減産の影響を受けて一部の主要製品が減収となった他、消費の落ち込みによる一般包材の受注減少が長引きました。その結果、後述いたします営業外費用の計上も加わり、売上高及び利益は前回予想を下回ることとなりました。

#### 2. 営業外費用の計上について

現在施工中の札幌工場跡地の土壌及び地下水汚染の浄化工事につきましては、環境負荷をできる限り低減するため、微生物の化学物質分解能力を活用した工法を採用しており、その施工計画は、当該跡地の汚染の状態に応じた標準的な施工方法、施工期間に基づいて策定しております。しかし、スポット的に高濃度に汚染された箇所が工事の進捗に伴って発見され、その地点では微生物による化学物質の分解が計画通り進んでいないことが判明したため、施工計画の変更と工事の追加が必要となりました。

その結果、今後、浄化工事が完了するまでに必要となる追加の費用1億93百万円を営業外費用に計上することといたしました。

(注)本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上